

2021年5月31日 定期評議員会

2021年5月31日 定期理事会

東京神学大学 事業報告書（2020年度）

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2020年度の入学定員は学部5名、別途3年編入学定員20名で、学部総定員は69名、大学院博士課程前期課程入学定員は各専攻15名、博士課程後期課程入学定員は各専攻2名です。2020年度の学生数は学部47名、大学院49名、計96名（2020年5月1日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教會的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教會の宣教とに奉仕しようとするものである。」

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1859（安政06）年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治05）年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治06）年 宣教師のS・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和05）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和18）年 教派ごとに分かれていた15の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の3校に統合される。
- 1944（昭和19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
- 1966（昭和41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。

- 1968 (昭和 43) 年 本館東部部分を増築。
 1986 (昭和 61) 年 本館から独立させて図書館棟を建設。
 2011 (平成 23) 年 韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
 2020 (令和 2) 年 教員住宅を更新。

3. 役員・教職員の概要 (2021年3月31日現在)

(1) 理事 (18名)

理事長	近藤 勝彦	理事	小林 眞
学長理事	芳賀 力	〃	佐々木美知夫
財務理事	長山 信夫	〃	嶋田 順好
常務理事	藤掛 順一	〃	楠本 史郎
〃	棟居 洋	〃	D.リーディー
〃	黒沼 健	〃	東野 尚志
〃	湊 美都子	〃	松井 睦
〃	安藤 良一	〃	小山 美弥
理事	高橋 潤	〃	河田 直子

(2) 監事 (2名)

監事	小山田小八郎
〃	齋藤 孝

(3) 評議員 (37名)

評議員	岡村 恒	評議員	藤掛 順一
〃	山畑 謙	〃	山縣 史子
〃	服部 修	〃	黒沼 健
〃	武田 真治	〃	小泉 健
〃	小林 眞	〃	芳賀 力
〃	鈴木 はるこ	〃	神代 真砂実
〃	郷田 敬	〃	井ノ川 勝
〃	望月 修	〃	佐々木美知夫
〃	安藤 良一	〃	小堀 康彦
〃	湊 美都子	〃	古屋 治雄
〃	穴戸 基男	〃	黒米 理恵
〃	市川 一宏	〃	渡邊 義彦
〃	松井 睦	〃	小山 美弥
〃	A.キスト岡崎	〃	D.リーディー
〃	高橋 潤	〃	嶋田 順好
〃	東野 尚志	〃	棟居 洋
〃	河田 直子	〃	片桐 牧雄
〃	長山 信夫	〃	戸塚 智之
〃	楠本 史郎		

(4) 教育職員 (13名)

学 長	芳 賀 力	准 教 授	須 田 拓
教 授	神 代 真砂実	〃	長 山 道
〃	小 友 聡	常 勤 講 師	田 中 光
〃	中 野 実	〃	本 城 仰 太
〃	W. ジャンセン	特 任 教 授	棚 村 重 行
〃	焼 山 満里子	〃	朴 憲 郁
〃	小 泉 健		

(5) 事務職員 (14名)

事務長	片 桐 牧 雄		
総務課	戸 塚 智 之	今 中 匡 彦	山 田 雅 子
経理課	光 永 豊	今 中 匡 彦	
財務課	松 本 秀 則		
教務課・学生課	萩 原 なおみ	小 林 由 希 子	原 田 恵 美
	木 村 訓 子		
図書館	木 下 真 由 美	岸 本 苑 子	鮎 川 千 織
印刷室	保 坂 久 実		

II 事業の概要

2020年度は、新型コロナウイルス禍の中、感染防止対策に追われ種々の活動が削がれ苦渋の運営が強いられた年度といえる。こうした中、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告することとしたい。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとされる方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2020年度には、この枠で2名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められているが、2020年度には、志望変更志願者はなかった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、既にそれぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載しているが、それぞれのアドミッションポリシーについて、2020年度においても引き続き改善のための検討・改訂が行われた。さらに、新たにアセスメントポリシーを定めることができた。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2020年度には1名について論文博士による学位の授与を決定できた。また、年度末には1名からの論文を受理した。2020年度の入学者は1名であった。引き続き、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながら、しかし十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充に取り組んで行きたい。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成 (FD)

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。

また、FD活動の一環として、また、大学基準協会の求めにも応じるかたちで、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせた。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会及び日本伝道研究所主催講演会

どちらも2020年度についてはコロナ禍により、実施できなかった。次年度の実施を期している。

c. 2020年度から本城仰太常勤講師が任用された。これにより、教育職員の定数14名に対して13名を確保することとなったが、もう1名の補充が喫緊の課題となっている。2022年度から1名を任用することを目指し、交渉を進めているが、2020年度は、この交渉の状況を踏まえつつ、特任制度の拡充のための規則改正を行った。これにより、今後、教育職員任用の可能性が広がることが期待されている。

d. 2020年度には、コンプライアンス基本方針を定めることができた。これにより、特に教授会の意志決定が忠実に実行される体制が整備された。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2020年度には、神学部・神学科1年次に3名、同3年次に14名、学部としては合計17

名の入学者を迎えた。なお、このうち2名は神学研修志望による入学である。2019年度の入学者は21名であり、全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断の努力が今後も必要である。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

①高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。

②本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2020年度は新型コロナ感染拡大のためにやむを得ず中止となった。

③「オープンキャンパス」は、2020年12月5日に実施され、学外からは12名の参加があった（オンライン6名）。そのうち受験相談には4名が参加した。コロナ禍の中で限定されたプログラムではあったが、例年通り開催できたことは幸いであった。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

④青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。しかし、2020年度はコロナ禍のために、やむを得ず9月26日に開催された。電話相談1名も含めて、3名の参加者があった。

⑤学生受け入れの手段としてホームページの活用が有効となる。そこで、2020年度は本学の魅力を紹介するための動画を制作した。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2019年度には視覚障がいを持つ学生1名を受け入れた。この学生は日頃の授業等での配慮は必要としていないが、文献を読んだり文書を作成したりすることに時間を要するため、試験の時間を延長するなどの措置を講じている。2020年度に学部での学びを終え、2021年度から大学院博士課程前期課程に進学することとなった。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015年以来毎年4月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。神学校全学集会も生活倫理講座も、2020年度はコロナ禍により中止した。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2020年度の夏期伝道実習は、例年と同じ形での実施に向けて準備していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、首都圏を越えて実習生を派遣することは断念した。期間は、前期の授業開始が遅れたことに伴い、当初の予定よりも一週間遅れ、原則としては8月9日～9月6日の期間、首都圏の教会で行われた。実習参加者は、学部4年生16名、大学院修士課程1年生11名、大学院修士課程2年生1名合計28人であった。このうち21名は日頃の出席教会で夏期伝道を行っていただくことになった。その場合は期間を10月末まで延長し、複数回の説教奉仕の機会を設けていただくようにした。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教授たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行ってきたが、2020年度は後期始業式を学内者のみで行うことにしたことに伴い、懇談会は中止した。ただし、2020年度から新たに、神学生が出席している教会の牧師に「神学生の教会生活についての報告はがき」を書いていただくこととした。60通の返信を得ることができた。2021年度からは、懇談会への出欠のはがきを利用して、報告を書いていただくことを継続していきたい。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生（永住者も含む）全員と教授会メンバー全員とで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2020年度はコロナ禍により自宅にとどまって遠隔授業を受けている学生もいることから、留学生懇談会もオンラインの会議システムを用いて12月8日に行った。今回に限り、教授会からは留学生委員会のジャンセン教授と小泉教授のみが参加した。留学生は2名が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2020年度は、大学院修士課程前期2年生の修了者は22名、学部からの卒業者は10名（大学院の学びをした2名を含む）、計32名が巣立っていった。大学院で学んだ22名のうち、4名は他教派からお預かりした人たちであった。残りの18名は全員が日本基督教団の教会等に遣わされていった。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学校との交換教授プログラム

2020年度はイエス教長老会神学大学校から教授をお迎えする年であり、交渉を進めてきたが、2020年度はコロナ禍のもと、残念ながら交流を中止した。

b. 学校伝道協議会

2020年5月に開催予定であった学校伝道協議会は、コロナ禍のもと、来年度に延期することになった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 2020年6月8日～9日に開催予定であった第3回日本伝道フォーラム（主題「福音の再発見：今、危機の時代にあって」）は、コロナ禍のもと開催できず、来年度への延期を余儀なくされた。

② 2020年度は、コロナ禍のもと大半の地区が公開講演会を中止した。唯一行われた東海・長野地区では、須田拓准教授が講演し、参加教会数は13教会、参加者総数は42人であった。

d. 教職セミナー

教職セミナーは毎年1月に開催され、学内外100名以上の参加者を与えられている。2020年度も、2021年1月12～14日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催する予定であった。しかし、コロナ禍のもと、計画を大幅に変更せざるをえなくなり、結果的には2021年1月12日（火）にオンライン（Webex）を介しての「教職者のためのオンライン・シンポジウム」として開催することになった。主題は「永遠の命」で、旧約、新約、歴史、組織、実践の神学各分野から五つの発題がなされた。100名近い参加者があった。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、毎週二回（月・金曜日：午後6:00～8:00）、銀座教会の福音会センターで開催されてきた。敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニークな神学講座である。各年度は3学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織

神学、教会史、世界宗教史、キリスト教美術、キリスト教音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶことができる。2年間で全科目を終える正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2020年度には、75期生をお迎えしたにもかかわらず、コロナ禍ですべてのクラス、プログラム（夏期研修会など）を取り止めるという苦渋の選択をせざるを得なくなった。秋に入り、「神学入門」のショートレクチャーやクリスマス礼拝の説教を本学のホームページにアップするなど、発信する試みを始めたが、十分な活動をすることは叶わなかった。

6. 内部質保証（自己点検評価）にかかわること

a. 東京神学大学「内部質保証向上委員会」の機能の実質化

2013年7月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018年度にその規程等が整備され、2019年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させることが課題となっている。2020年度は、大学基準協会からの指摘事項や、理事会・評議員会の懇談会においてなされた提言、中期計画の進捗状況等を踏まえて、まず内部質保証向上委員会が改善すべき課題を把握し、それが8月と3月の特別教授会に報告されて、検討された。

このように、内部質保証の体制が整い始めていると言える。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・図書館・学生寮の出入口にアルコール消毒液とマスクを設置した。また、各教室出入口にもアルコール消毒液を設置し、併せて各教室に「3つの密を避ける」ポスターを掲出した。

図書館では、2019年度の2月（2020年）から引き続き、2020年度も利用者間に感染拡大が生じないように各種の対策を取った。まず、オンライン授業の実施により学生の一部が来館する状況と合わせて、学外利用者の受付を停止した。学内利用者には入館時の手指の消毒とマスク着用を義務づけ、距離を取っての利用を促した。そのため、入館人数や館内席を制限した。午前と午後図書館施設のみならず、図書館棟全体の消毒を行い、カウンターも利用者との間に難燃性のビニルカーテンで仕切った。さらに、従来はアルバイト学生のシフト人数を同時に複数としていたが1人に限定した。

b. オンライン授業の実施

新型コロナウイルス感染防止のためのオンライン授業実施に伴い、2020年4月22日より「Cisco Webex 高等教育機関向け特別支援プログラム 180日無償トライアルライセンス」（協力：国立情報学研究所）の利用を開始、延期していたオリエンテーションを5月8日に実施し、5月16日より前期授業を開始した。教員は大学の教室、研究室または自宅から講義を行い、通学生は原則オンライン、寮生は教室または学生寮で受講することとした。

上記特別支援プログラムが2020年10月20日に終了することに伴い、引き続き授業のイベント等をオンラインで実施するため、Cisco Webex Meetings Education Offerの正式プランを年間契約し、2020年10月14日に移行した。

授業実施に先立ち、4月14日～5月7日まで東京神学大学ウェブサイト上で学生のリモート受講環境アンケート（使用端末、通信環境、機材など）を実施した。このアンケートに基づき、必要な機材を持っていない学生のために学生貸出用の中古ノートパソコン

ン1台、USB無線LAN子機5台を購入した。ノートパソコンは前期授業期間中1回、後期授業期間中2回貸し出し、USB無線LAN子機は前期授業期間中3台を貸し出した。

本館1階奥の非常勤講師控室とS教室にC教室のノートパソコン計7台を設置し、オンライン授業で利用するための教室として整えた。また、各教室のWi-Fi利用環境を整えるため、2020年7月6日に本館2階西側にLAN回線を延伸し、Wi-Fiアクセスポイントを3か所増設した。また、オンライン授業による通信量の増加等に対応するため、学内インターネット回線(SINET)のプランを変更し、2020年8月14日に回線速度を200Mbpsから1Gbpsへ増強した。

c. セキュリティソフトの更新

セキュリティソフト販売元のSymantec社がBroadcom社に買収され国内の法人が撤退し、学内で使用してきた製品の販売とサポートが終了した。後継製品であるSymantec Endpoint Securityへの移行を試みたが、度重なるライセンス条件変更により、継続して利用することができなくなったため、2021年2月3日にCanonマーケティングジャパン社のセキュリティ製品ESET Endpoint Securityへ移行した。

d. 図書館システムリプレイス

図書館システムは、全国大学図書館データベースの仕様変更やコンピュータ技術の進化を取り込むために、5年に1度、ハードウェアとソフトウェアのリプレイスメントを行っている。図書館業務に関するシステム一式を入れ替えるため設定等の準備に1年以上を費やし、15万件近いデータを確認しながら移植していく。2020年度もリプレイスメントの年にあたり、前年度より準備を進めて10月に新規システムの稼働に漕ぎつけた。デジタル技術は日進月歩であり、その後もマイナーな仕様変更を行いながら次の準備に取りかかっている。

e. 教務システムリプレイス

教務課では2009年9月の導入以来、(株)コンピュータムーブによる教務システムを使用している。同システムのサーバーは耐用5年の周期でリプレイスを要するため、2015年のリプレイスから5年が経過した2020年8月、2回目のサーバー・リプレイスを実施した。

新サーバーのセットアップ、旧サーバーからのデータ移行、NASデータの移行を完了後、旧機材の廃棄とデータ消去を行った。リプレイスにあたっては、メモリーボードを増設し、増大するデータの保存と処理に対応しうるハードディスク容量を確保した。

なお、教務課内で使用している端末5台は、Windows7からWindows10への移行を機に、前年12月にリプレイス済。

f. 本館の空調機の更新

2020年度はD教室及び研究室(1室)の更新を行った。

g. 主な修繕工事

- ① 図書館閲覧室の照明は、水銀ランプを使用しているが、既に生産中止となっており入手が困難であること、交換作業(高所作業)を業者に依存していることを鑑み、LED化した。
- ② 本館2階東側通路に天窗(ドーム型)があり、劣化により雨漏り(1か所)が発生したため、交換した。
- ③ 図書館棟東側に高木(ヒマラヤスギ2本、メタセコイア2本)があり、倒木防止のため芯止め(これ以上伸びないようにすること)及び風通しを良くするため剪定を行った。

- ④ 本館地下（旧電気室）に保管してあったトランス（低濃度 3 個、非 PCB 5 個）を処理会社に依頼し適切に処分した。

h. キャンパス整備事業

2019 年度に教員住宅が完成し、2020 年度は学生寮の建設を開始した。学生寮の建設完了時に資金不足が予測されたが、第 3 号基本金を事業資金(第 1 号基本金)へ移行する多くの同意を得られ、借り入れを行うことなく、建築が進められる計画となった。各事業の進捗は以下の通りである。

① 教員住宅

2020 年 3 月に完成・引き渡しを受け、供用を開始した。2021 年 3 月に竣工後 1 年検査を行い、ドアや階段周りの修正を行った。2021 年度に、201 号室・202 号室へ向かう階段上の接合部分の目隠し工事を追加で行うこととした。

② 学生寮

教員住宅に続き白石建設が建設を行う。2020 年 3 月より、既存の校宅の解体、建設予定地の整地を開始し、5 月に着工した。消防関連工事や、ガス管変更工事などの追加工事等で予算は増加したが、工期に関しては予定通り進めることができた。2021 年 4 月末竣工予定で工事は進んでいる。2021 年 5 月より供用を開始する予定である。

③ 研修センター

2020 年度中にコンセプトや必要機能をまとめる計画であったが、2021 年度も引き続き基本構想を検討する。学生寮完成時点で資金繰りを含め再度着工時期について判断する。

8. 主たる行事

- (1) 4月1日 入学式・前期始業式、任職式 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
式 辞：芳賀 力学長
任 職 式：本城仰太常勤講師
始業講演：「福音による人間形成」長山 道准教授
- (2) 4月6日 公開夜間神学講座開講式 銀座教会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
- (3) 4月13日 公開夜間神学講座 1学期開始 銀座教会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
- (4) 5月8日 新入・編入生オリエンテーション
- (5) 5月16日 前期授業開始
- (6) 5月16日 第21回キリスト教学校伝道協議会 主題「キリスト教学校の礼拝」
教員免許状更新講習
⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (7) 5月29日 運動会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (8) 5月29日 公開夜間神学講座 クラス会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (9) 6月8日～9日 第3回日本伝道フォーラム
主題「福音の再発見 ～今、危機の時代にあって～」
⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い延期
- (10) 6月23日 全学祈祷会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (11) 7月14日 夏期伝道実習オリエンテーション
- (12) 7月21日 夏期伝道実習壮行祈祷会 ⇒ クラス別祈祷会として実施
- (13) 7月31日 前期授業最終日
- (14) 8月8日 夏期休業開始
- (15) 8月9日～9月6日 夏期伝道実習期間（首都圏以外は派遣中止）
- (16) 8月24日～25日 公開夜間神学講座 夏期研修会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (17) 8月31日 公開夜間神学講座 2学期開始 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (18) 9月15日 大学院修士論文提出締切
- (19) 9月24日 後期始業式、任職式
始業講演：「福音による人間形成」長山 道准教授
任職式：本城仰太常勤講師
午後「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止とし、神学生の教会生活についての報告をハガキで頂く
- (20) 9月25日 後期授業開始
- (21) 9月26日 入試説明会
- (22) 9月26日 第22回日本伝道を担う青年の集い ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (23) 10月6日 夏期伝道実習報告会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (24) 10月13日～21日 11月入試願書受付期間
- (25) 11月10日 クラス別懇談会
- (26) 11月11日 懇談会

- (27) 11月23日 11月入試実施日
- (28) 11月25日 11月入試合格発表
- (29) 12月4日 公開夜間神学講座 クリスマス会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (30) 12月5日 オープンキャンパス
- (31) 12月9日 修士論文合格発表
- (32) 12月18日 クリスマス礼拝
- (33) 12月19日 冬期休業開始
- (34) 1月7日～15日 2月入試願書受付期間
- (35) 1月12日～14日 第52回教職セミナー ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (36) 1月12日 教職者のためのオンライン・シンポジウム
主題「永遠の命」
- (37) 1月16日 後期授業再開
- (38) 1月19日 第2回全学祈祷会
- (39) 1月26日 後期学生総会
- (40) 1月27日～2月4日 3月入試願書受付期間
- (41) 2月10日 後期授業最終日
- (42) 2月11日～12日 2月入学者選抜実施日
- (43) 2月16日 2月入学者選抜合格発表
- (44) 3月1日 公開夜間神学講座 春季研修会 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (45) 3月4日 2020年度大学院前期課程修了者、学部卒業生発表
- (46) 3月8日 公開夜間神学講座 修了式 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止
- (47) 3月9日 3月入学者選抜実施日
- (48) 3月11日 3月入学者選抜合格発表
- (49) 3月11日 卒業礼拝 説教者 船戸良隆（勝沼教会牧師）
- (50) 3月12日 卒業・修了式
告 辞：芳賀 力学長
励ましの辞：石橋秀雄（教団総会議長）、武田真治（上尾合同教会牧師）
- (51) 3月16日 第1回追加入学者選抜実施日
- (52) 3月17日 第1回追加入学者選抜合格発表
- (53) 3月30日 第2回追加入学者選抜実施日
- (54) 3月31日 第2回追加入学者選抜合格発表